



# 雀宮東小だより

令和 3年 2月 26日  
宇都宮市立雀宮東小学校  
No10 発行者 窪田 幸子



<http://www.ueis.ed.jp/school/suzume-e/>

すなおで かしくく たくましく 責任果たす ひがしの子



## ～伝統をつなぐバトンタッチの季節～



暦は間もなく3月。今年度も残すところ1か月余となりました。通常ならインフルエンザの流行が心配な時期ですが、り患している児童もなく、子ども達は元気に様々な活動を行っています。

2月16日(水)業間後の出来事です。朝から強い風が吹いていましたが、青空の下元気に遊んでいた子ども達は、チャイムの合図とともに教室へと急いでいました。その時、強風にあおられ、東門西側の駐車場に置かれていたカラーコーンが次々と倒れてしまったのです。少しでも早く教室に戻りたいであろうに、数人の子ども達が倒れたカラーコーンを元のように戻して立ち去りました。しかし、無情にも、風が再びカラーコーンをなぎ倒すのです。そのたびに子ども達は戻ってきて、繰り返しカラーコーンを元のように戻すのです。職員室の防犯モニターに映し出された子ども達の一連の行動に、職員室に居合わせた教職員から『偉いね』と感心する言葉が自然に、何度も聞こえてきました。これが雀宮東小学校の子ども達の姿なのですね。心がとても温かくなると共に、改めて子ども達は雀宮東小学校の宝であり、自慢であると実感いたしました。

2月10日(水)に予定していた授業参観は、県の緊急事態宣言延長に伴い中止といたしました。各学年とも、心身ともに大きく成長した子ども達の学年末の様子をお見せできなかったことが大変残念です。また、担任から保護者の皆様に話をさせていただく最後の機会となる学級懇談会もなくなってしまいました。そこで、過日、各学級担任より「学級懇談会資料」を配付いたしました。文章ではなかなか伝えきれない内容もあるかと思いますが、学級毎の子ども達の様子や今後の予定等をお知らせいたしました。ご質問やご意見等ありましたら、遠慮なく担任にお話してください。

### 「3つの旗」引継ぎ

### 「登校班長」引継ぎ

掲揚塔に掲げる3つの旗「国旗・市旗・校旗」は、学校の顔とも言える大切なものです。それを毎朝掲げて下校前に降ろすのは、6年生の重要な仕事の一つです。旗がきれいにはためくように揚げることはもちろん、天気の状態によって揚げるか降ろすかの判断や、天気の急変に応じての対応をしなければいけない難しさがあります。

3月1日(月)、いよいよ5年生にバトンタッチです。少しでもスムーズにバトンタッチができるよう、2月17日(水)6年生から5年生への伝達講習が始まりました。紐の付け方、揚げ方、掲揚塔へのロープ紐の縛り方等、旗を上手に揚げるためのコツや心構えを伝授してもらいました。この後、22日から各委員会の伝達も始まり、5年生、頑張りましょうね。応援しています。



2月17日(水)の一斉下校時に、登校班長の引継ぎ式を行いました。下級生からは、毎日登校班の安全を守ってくれた6年生の班長さんに、長い間お世話になった感謝の気持ちを込めて、「ありがとうございました。」と、お礼を言うことができました。そして、いよいよバトンタッチです。下校からは、各班6年生を除く最高学年の子ども達が班長になりました。6年生は各班の最後尾に付いて、新班長を見守りながら下校をしました。

新米の班長達なので、学校でも、時折登下校の様子を確認しながら支援・指導していきたいと思えます。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても、上手にできていることには称賛を、改めるべきことにはご指導をさせていただきながら、子ども達の登下校の様子を見守っていただきますよう、ご協力よろしく願いいたします。



# 2/25 (木) 6年生を送る会

～ありがとう！の気持ちを込めて～



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「6年生を送る会」はこれまでのように全員が体育館に集まることを避け、1～5年生の気持ちを伝えられる方法を検討・工夫して実施いたしました。

まず、放送室スタジオを使ってTV放送による開会式を行い、自作フォトムービー「6年間の思い出」を放映しました。その後、在校生は校庭に出て、縦割り班毎に『祝』の文字を囲むようにダイヤ型に並んで、6年生にメッセージを届けました。6年生には、それらの様子を南校舎3階理科室・家庭科室ベランダから見てもらいました。そしていよいよメインイベントです。5年生代表のカウントダウンの掛け声が続いて全校生のカウントダウンが行われ、「いくぞー！」の掛け声でバルーンリリースの始まりです。色とりどりの風船にそれぞれの夢や希望・願いを込めて、天高く風船を飛ばしました。子ども達一人一人の笑顔と大きな歓声は、感動となって会場にいた全員の心にも届いたに違いありません。風船が見えなくなるまで、全員で見守りました。不思議と温かい気持ちになり、心が優しさで包まれたようでした。最後に、卒業生から在校生に、在校生から卒業生に、互いのプレゼントを贈り合い、閉会しました。

これまでとは全く違う新しいやり方の「6年生を送る会」でした。イメージする隊形と実際の見え方には違いがあり、5年生は何度も練り直し、練習をしました。苦労はしましたが、誰もが「6年生に喜んでほしい」「下級生をリードしなければ」という一心で、挑戦しました。

5年生は自分たちが中心になって全てを成し遂げた達成感や成就感を、6年生は5年生へ役割をバトンタッチできた安堵感と中学校生活への新たな希望を、そして、1～4年生は5年生への尊敬とあこがれを抱いたことでしょう。

この1年間「学校の顔」として下級生をリードし、あこがれの存在であった6年生の「頑張りのバトン」が伝統となって着実に引き継がれ、5年生へと渡った活動となりました。これからの5年生の活躍に期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様のご理解とご支援のお陰で、子ども達の気持ちが『夢』と『希望』で一杯になりました。本当にありがとうございました。



※カラー版はホームページでご覧になれます。